

「授業年間計画表」（シラバス）

令和5年度版

教科・科目	教科	科 目		単位数	履修学年
	国語	現代の国語	【必履修】	2 単位	1 年 全 コース
目 標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
使用教材	教科書：第一学習社 高等学校 新編現代の国語 副教材：尚文出版 新常用漢字必携パーフェクトクリア 改訂版				
評価の観点・評価規準	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。		「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。	
評価方法	授業の取り組み姿勢、テキストの音読、発問と応答、意見発表、ノートのまとめ、漢字テスト、中間考査、期末考査、ふりかえりシート				
学期	学習項目		学習内容及び評価の観点		
1	〔理解編〕 「未知」はいくらでもある（宮内悠介） 言語としてのピクトグラム（本田弘之） 十六歳のとき（星野道夫） 〔表現編〕 話し方の工夫 待遇表現 論理的な表現		・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、要旨を把握する。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら、内容を解釈する。 ・自分の考えや事柄が的確に伝わるように、根拠の示し方や説明のしかたを工夫する。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・粘り強く段落と段落の関係を押さえ、学習課題に従って本文の構成を捉えようとしている。 ・話し言葉と書き言葉の特徴を理解する。 ・相手、目的、場面に応じた言葉遣いを理解する。 ・相手に伝わりやすい表現方法を理解する。 ・敬語表現を意識した言葉遣いを理解し、使おうとしている。 ・論理的に表現するための主張と理由の関係性や妥当性について理解する。 ・説得力を意識した表現のしかたについて理解する。		
2	〔理解編〕 臆病な詩人、街へ出る（文月悠光） 図書委員会のポスターの掲示内容を検討する 〔表現編〕 スピーチで自分を伝える 相手に伝わる案内をする 理想の修学旅行をプレゼンする		・他者との関わりを通して自身の人生や生き方を省みる筆者の姿に触れ、自分自身を見直す契機とする。 ・本文を読んで考えを深め、表現を工夫して自分の体験や考えを書こうとしている。 ・文章に含まれている情報を相互に関係づけながら内容を解釈する方法を学ぶ。 ・読み手の助言を踏まえて、目的に応じて書かれているかを確認、書き直す手順を学ぶ。 ・複数の文章から読み取った情報を吟味し、文章の構成に注意してまとめようとしている。 ・自分の意見を大勢の聞き手にわかりやすく伝えるスピーチの方法を理解し、実践する。 ・進んで材料を集めたり吟味したりし、今までの学習を生かしてスピーチを行おうとしている。 ・目的に沿って的確に案内する方法を理解する。 ・相手や場の状況を押さえて案内することができる。 ・情報を大勢の聞き手にわかりやすく説明するプレゼンテーションの方法を理解し、実践する。		

3	〔理解編〕 人はなぜ仕事をするのか（内田樹）	・筆者の仕事観について述べた文章を読み、自分の意見や考えを論述する。 ・本文を読んで働くことに対する考えが深まったかどうかを進んで振り返り、根拠をあげて説明しようとしている。
	イースター島になぜ森がないのか（鷲谷いづみ）	・イースター島の歴史について理解し、筆者が提示する人類と生態系のあり方について考察する。 ・本文の解釈を踏まえて持続可能性について考えを深め、積極的に考えたことをまとめようとしている。
	「間」の感覚（高階秀爾）	・文章を分析的に読み、対比構造を用いた論理の展開について理解する。
	日本語は世界をこのように捉える（小浜逸郎）	・文章を分析的に読み、具体例を多用した論理の展開について理解する。 ・評論を粘り強く読み、学習課題に沿って論理の展開を分析しようとしている。
	〔表現編〕 書き方の基礎レッスン 実用的な手紙文の書き方	・進んで表記、表現の基本ルールを理解し、性格でわかりやすい文を書こうとしている。 ・実用的な手紙文として、依頼文と案内文の書き方を理解し、実践する。 ・書いた手紙文を進んで批評し合い、批評を踏まえて文章の構成、展開や表現を工夫しようとしている。

「授業年間計画表」（シラバス）

令和5年度版

教科・科目	教科	科 目		単位数	履修学年
	国語	言語文化		【必履修】 2 単位	1 年 全 コース
目 標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
使用教材	教科書：第一学習社 高等学校 新編言語文化 副教材：				
評価の観点・評価規準	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。		「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもとうとしている。	
評価方法	授業の取り組み姿勢、テキストの音読、発問と応答、意見発表、ノートのまとめ、中間考査、期末考査、ふりかえりシート				
学期	学習項目		学習内容及び評価の観点		
1	〔近現代〕 島の少年－船（内海隆一郎） 道程（高村光太郎） 六月（茨木のり子） I was born（吉野弘） 〔古文〕 古文の学習 鳩と蟻のこと（伊曾保物語） なよ竹のかぐや姫（竹取物語） 筒井筒（伊勢物語）		・描写に表われた登場人物の心情をそれぞれの視点に立って読み解き、少年を中心に置いた小説の展開を捉える。 ・常用漢字を文や文章の中で活用する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・登場人物の心情や人物像を捉え、学習課題に沿って説明しようとしている。 ・近代詩の鑑賞のしかたを理解し、作品に示された作者の思いを読み取る。 ・現代詩の鑑賞のしかたを理解し、作品にこめられた世界への思いを読み取る。 ・散文詩に親しみ、「I was born」という言葉がどのようなイメージで捉えられているかを読み取る。 ・詩を繰り返し音読し、積極的に詩のリズムを理解しようとしている。 ・我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典の世界に親しむことの意義を知る・ ・話の内容を口語訳でおさえながら、古文特有の仮名遣いと言葉に慣れる。 ・『イソップ物語』の翻訳という文章の種類を踏まえて、内容や展開を的確に捉える。 ・現代まで受け継がれる物語の読み取りを通して、古文世界への親しみを深める。 ・初期仮名物語に積極的に親しみ、学習課題に沿って伝奇性や心情描写特色を捉えようとしている。 ・和歌を含む物語の取り組みを通して、古文への興味・関心を広げる。 ・文化的背景を十分に理解し、作品に表われた美意識について、考えたことを積極的に伝え合おうとしている。		
2	〔近現代〕 羅生門（芥川龍之介） 大切な言葉 手毬唄 折句を用いて短歌を作る		・作品の成立した背景を踏まえて、内容の解釈を深める。 ・老婆の語る論理を、叙述を基に読み解き、学習課題に沿って、下人がどのように判断したか、説明しようとしている。 ・我が国の伝統文化の一つである短歌の鑑賞のしかたを理解し、近代を代表する歌人の作品を味わう。 ・我が国の伝統文化の一つである俳句の鑑賞のしかたを理解し、近代を代表する俳人の作品を味わう。 ・進んで折句の技法と伝統を理解し、学習課題に沿って折句を用いて短歌を創作しようとしている。		

	〔古文〕 枕草子（清少納言） 古典の和歌を現代の言葉で書き換える （俵万智） 〔漢文〕 漢文の学習 訓読に親しむ 漢文を読むために	・当時の人々の生活感覚を反映した文章を読んで、古文に表われたものの見方、考え方の一端に触れる。 ・作品に表われたものの見方、考え方や美意識を積極的に理解し、学習課題に沿って自分の考えを伝え合おうとしている。 ・古典の和歌を現代の言葉で書き換える意義を積極的に理解し、学習課題に沿って、古典の和歌を現代の言葉で書き換えようとしている。 ・我が国の言語文化についての理解を深めるために、古典としての漢文を読むことの意義を知る。 ・我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 ・これからの学習に見通しをもって、我が国の言語文化に大きな影響を与えた漢文に興味、関心を深めている。 ・漢文を訓読するための基礎知識として、返り点の種類と使い方、助字のはたらきと意味、再読文字の種類と読み方を習得する。 ・日常的に使う故事成語や格言の量を積極的に増やし、漢文が我が国の言語文化と不可分の関係にあることを理解しようとしている。
3	〔近現代〕 よだかの星（宮沢賢治） わたしはマララ（マララ・ユスフザイ） 「祭り」をテーマに随筆を書く 〔漢文〕 五十歩百歩（孟子） 矛盾（韓非子） 狐借虎威（戦国策） 唐詩の世界 梟逢鳩（説苑）	・作品に含まれる寓意を理解し、主人公の置かれた状況から生じる心理や行動をもとに人間の生き方を考える。 ・作品に書かれた「生きる」ことについて、考えたことを進んで発表しようとしている。 ・不合理な暴力と闘う女性の体験と信念を知り、日本以外の世界の出来事にも興味、関心を持つ態度を養う。 ・自伝的小説という文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などを的確に捉える。 ・結びの文章に表われた筆者の信念を文脈の中で捉え、考えたことを積極的に話し合おうとしている。 ・伝統文化に関して積極的に題材を集め、集めた題材のよさや味わいを吟味し、随筆に書き表そうとしている。 ・漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを知る。 ・故事成語の由来となった話を読み、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解する。 ・表現や技法（押韻や対句）に留意して漢詩を鑑賞し、古代中国の人々が自然や人事に向けた思いを読み取る。 ・漢文の散文作品に触れて読みに慣れるとともに、鳥の話に託された寓意を読み取る。 ・話にこめられている教訓を説明しようとしている。

「授業年間計画表」（シラバス）

令和5年度版

教科・科目	教科	科 目		単位数	履修学年
	国語	論理国語		3 単位	2 年 全 コース
目 標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ・実社会に必要な国語の知識や技能を身につけるようにする。 ・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。				
使用教材	教科書：第一学習社 高等学校 標準論理国語 副教材：尚文出版 新常用漢字必携パーフェクトクリア 改訂版				
評価の観点・評価規準	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	実社会に必要な国語の知識や技能を身につけている。		「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、読書に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めて言葉を効果的に使おうとしている。	
評価方法	授業の取り組み姿勢、テキストの音読、発問と応答、意見発表、ノートのまとめ、漢字テスト、中間考査、期末考査、ふりかえりシート				
学期	学習項目		学習内容及び評価の観点		
1	〔理解編Ⅰ〕 進化が導き出した答え（稲垣栄洋） 数え方で磨く日本語（飯田朝子） 情けは人の……（俵万智） 犬も歩けば棒に当たる（阿刀田高） 〔資料編〕 読書のしるべ		・生物の進化における多様性について理解し、それを人間の生き方に照らして考えを深める。 ・内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。 ・語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 ・文章の構成や展開のしかたについて理解を深める。 ・具体例をもとに日本語のものの数え方の性質や文化的特徴を理解し、日本語感覚を磨く。 ・言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解する。 ・本文中に示された言葉の正しい意味を知るとともに、言葉に対する筆者の姿勢を読み取る ・一つのことわざについて複数の解釈を提示する文章を読んで、日本語の多様性について理解を深める。 ・関連するテーマの文章を読み比べ、書き手の立場や目的を考えながら内容を解釈し、両者を比較しながら考えをまとめる。 ・読書の意義と効用を理解する。 ・教材のテーマやキーワードから積極的に興味や関心を広げ、関連する書籍を読もうとしている。		
2	〔理解編Ⅰ〕 ヒトはなぜヒトになったか（長谷川眞理子） 鏡としての他者（榎本博明） ボランティアへの参加を伝えるメールの文章を検討する 〔理解編Ⅱ〕 新しい博物学を（池内了） SNSと意見の分極化（岡本真一郎）		・因果関係を解き明かしていく論理構成の手順を把握し、ヒトの進化の過程を理解する。 ・文章構造をもとに筆者の主張を読み取り、他者が自己に与える影響を考える。 ・実用文には書き方のルールがあり、場面や目的に応じて書き方に工夫が必要な点を理解する。 ・実用文の書き方が場面や目的によって異なることを積極的に把握しようとしている。 ・各段落の役割や関係を把握し、筆者の提案する「新しい博物学」の意義と可能性を考察する。 ・フェイクニュースの社会的問題を分析的に説明する論展開を把握し、自分に照らして考えを深める。		

3	〔理解編Ⅱ〕 クマを変えてしまう人間（千松信也）	・ 猟師である筆者の体験をもとに語られる、人間の活動と自然との関係について理解を深める。
	経験の教えについて（森本哲郎）	・ 論理的文章の構成の型を知り、「経験の教え」について自分に引き付けて考えを深める。
	科学技術は暴走しているのか（佐倉統）	・ 『イソップ物語』について積極的に調べ、最も印象に残った話とその理由を発表しようとしている。
	〔表現編〕 小論文を書く	・ A I やロボット技術の現状や日本における捉え方をふまえ、科学技術との向き合い方を考える。
		・ 設定した題材について、仮説を立てて考察した内容を意見文にまとめる。
		・ 得られた情報をもとに自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえる。
		・ 論理的な文章を書くための効果的な文章構成や論展開の仕方を把握し、積極的に構成に生かそうとしている。
		・ 書き上げた小論文を評価するポイントを理解する。
		・ 書いた小論文を相互評価し、批評を踏まえて粘り強く修正しようとしている。

「授業年間計画表」（シラバス）

令和5年度版

教科・科目		教科	科 目		単位数	履修学年
		国語	国語表現		3 単位	3 年 A (選)、B コース
目 標		国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。				
使用教材		教科書：教育出版 国語表現 改訂版 副教材：京都書房 テスト式 国語常識の総演習 修訂三版				
評価の 観点・ 評価規準	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解	
	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話したり、聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	相手や目的、意図に応じた適切かつ効果的な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言葉の特徴やきまり、役割などについての理解を深め、知識を身につけている。	
評価方法		自分の考えを適切に表現し、他者の考えを的確に理解する。 自分の考えを深め、見聞を広める。 中間考查、期末考查、小テストなど。				
学期	学習内容		学習のねらい		学習活動	
1	表現の基礎 小論文Ⅰ 声の表現 人とつながる言葉		・ 文章表現の基礎を理解する。 ・ 自分の考えや伝えたい内容を適切に相手に伝えられる。 ・ 人前で発表することができる。 ・ 他人の話を正しく聞き、話の内容やポイントを理解する。 ・ 場合に応じた言葉遣いができる。		・ 文章表現の基礎を学習する。 ・ テーマにそって小論文を書く。 ・ スピーチの原稿を書く。 ・ スピーチをする。 ・ 敬語についての理解を深める。	
2	面接―社会との接点 言葉を届ける 小論文Ⅱ		・ 必要な情報を収集する手段について理解する。 ・ 自分の考えや伝えたい内容を適切に相手に伝えられる。 ・ 場合に応じた言葉遣いができる。 ・ 手紙の形式を理解する。 ・ 情報を読み取り、文章にまとめることができる。		・ 自己分析をする。 ・ 志望先の情報を集める。 ・ 模擬面接をする。 ・ 手紙を書く。 ・ 課題文を読み取り、小論文を書く。 ・ データを読み取り、小論文を書く。	
3	エッセイを書く 物語を作る		・ もとになる作品の内容を理解する。 ・ 自分の考えを、自分の言葉で表現する。 ・ 適切な表現や効果的な表現について工夫し、それらを正しく使うことができる。		・ 物語の二次創作を作る。 ・ エッセイを書く。	
学習上の留意点	適切かつ効果的に表現できるようにし、伝え合う力を高める。また思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨くため、効果的に小テストを実施する。					

「授業年間計画表」（シラバス）

令和5年度版

教科・科目	教科	科 目		単位数	履修学年
	国語	地域と国語（学）		2 単位	3 年 A（選）、B コース
目 標	南伊勢町および南勢地区についての学習と、この地域にゆかりのある作家の作品を学習する。				
使用教材	教科書： 副教材：南伊勢学検定のテキスト、プリントなど				
評価の観点・評価規準	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話しの確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的，意図に応じた適切な表現による文章を書き，自分の考えをまとめ，深めている。	郷土に関する文章を的確に読み取ったり，目的に応じて幅広く読んだりして，自分の考えを深め，発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまり，漢字などについて理解し，知識を身に付けている。
評価方法	・ 文章の内容を叙述に即して的確に読み取る。 ・ 説明や意見文などを書くとき、自分の考えを相手に伝えるために内容を明確に示し、組み立てのしっかりした文章を書く。 ・ 中間考査、期末考査、小テストなど				
学期	学習内容		学習のねらい	学習活動	
1	南伊勢町の民話・伝説・方言について学ぶ		・ この地域について文学的に考察する。 ・ 南伊勢学検定のテキストを活用する。	・ 民話、伝説に関する調べ学習 ・ 民話、伝説に関して報告文を書く ・ 民話、伝説に関して調べたことを発表する ・ 方言に関する調べ学習 ・ 方言に関して報告文を書く ・ 方言に関して調べたことを発表する ・ 郷土についてレポートをまとめる	
2	南伊勢町の民話や地域に関する文学作品を学ぶ		・ この地域にゆかりのある作家の作品を鑑賞する。	・ 野口雨情、田山花袋 三島由紀夫 伊良子清白 江戸川乱歩などの作品を読む。	
3	郷土について考察する。		・ これまで学習したことを総合的にまとめ、郷土の魅力を実感し、愛着をもつ。	・ 名所や観光地の紹介を作成する。 ・ 今後、郷土のアピールなと思われる事柄について、自分の考えをまとめ、発表する。	
学習上の留意点	文章の内容を理解・鑑賞ができるようにしたい。漢字や語彙についても、小テスト等を実施する。				